

論文審査の結果の要旨

氏名：孫 旭 光

博士の専攻分野の名称：博士（工学）

論文題名：中国の歴史的・文化的都市環境を形成する街区と水空間の保護に関する研究

審査委員：(主査) 教授 小 林 直 明

(副査) 教授 小 林 昭 男 教授 重 枝 豊

教授 宇 於 崎 勝 也 特任教授 畔 柳 昭 雄

申請論文は、中華人民共和国（以下中国と略す）において歴史文化名城制度によって指定された都市および世界遺産に登録された都市を対象として、歴史的・文化的都市環境に見られる建築物や街区および水空間と、そこに居住する住民生活に焦点をあて、長期にわたる現地調査を行い、現在の中国における文化・環境の保護における課題や問題点を捉え、今後の都市環境の形成に資する計画的示唆を見出すことを目的に実施された研究論文である。

本論文の研究背景には、中国国内各地における都市部の近代化推進のための都市機能更新や社会基盤整備による大規模な都市改造が進む中で、近代建築による地域性の薄い都市景観が増加し、中国特有の伝統的様式を持つ建築物や街並みが改変・消失され、それらの場所が持つ固有の雰囲気喪失している現状がある。一方で、中国国内各地には開港都市や租界と呼ばれてきた場所が点在しており、長い歴史を経る中で異国の文化を吸収同化して形成された特有の街並みを残存させ、それらが歴史的・文化的な価値を帯びた都市環境を形成している。このような状況において、本研究では、従来から公表されてきた中国および日本における既往研究を整理した上で、物理的環境としての建築物やそれが生み出す街区や水空間の保護、大規模再開発による移転、近代化の進展の中で伝統的な生活を営む民族の存在というような開発と環境保護という二律背反な状況の狭間に置かれた住民生活に着目し、次の3か所を研究対象として挙げられている。すなわち、建築および街区の代表的場所として、①歴史的建築物の保護に関する調査は国級歴史文化名城の指定を受けた山東省烟台市、②歴史文化街区の保護に関する調査は国級歴史文化名城の指定を受けた山東省青島市、③地域社会形成に寄与する水空間利用に関する調査は世界文化遺産登録された雲南省麗江大研古城である。

研究対象の3都市の一つ目である山東省烟台市は、歴史的建築物の保護を考究する対象として選定され調査が実施された。烟台市は国級歴史文化名城の指定を受けており、現地調査の結果では、開港都市であり海岸地区に位置する烟台山地区を中心とした歴史的建築物の保護管理の状況、ならびに、「烟台市優秀歴史建築修繕工程統一要求」に基づく保存・修復の状況を整理し、保護管理の施行に基づいて竣工時の原型復元が6項目にわたりなされていることを明らかにしている点は高く評価できる。また、開港都市の街づくりの復元に関する調査結果では、2002年の市内5地区の重点保護地区指定後に比して2013年の国級歴史文化名城指定後では、街区指定と保護地区、歴史的建築物指定数が増加しており、烟台市が国級歴史文化名城に格上げされて指定されたことによる事業推進が進んでいることを示している点は高く評価できる。このことは本研究の独自性といえ、今後の歴史的建築物と街区の保護施策の構築に大きな貢献をなすものと考えられる。

次に、歴史文化街区の保護・保存と利用のあり方を考究する対象として、山東省青島市が選定され調査が実施された。青島市については、まずドイツ統治時代からの歴史を踏まえ、歴史文化名城制度に基づく保護対象建築物が改造や破壊・解体された実態の把握、「歴史文化街区」の指定数の見直し、「青島ビール街区」の商業主義的色彩の高まりで国級歴史文化街区の指定の解除などの変遷を示している。このことを踏まえた現地調査では、「青島ビール街区」を構成する都市環境の変容要因が観光拠点化、主として各店舗による店舗前空間の屋外利用であることを明らかにしている点である。また、関係者へのヒアリングから、行政による街区への補完的な支援、店舗の環境維持対策などがなされていることを示している点は綿密な調査と考えられる。この結果は歴史文化街区の保護には細やかな支援や対策が必要であることを示しており、今後の保護政策に対して重要な検討条件を与えていることは工学的有用性を有しているものとする。

第3の都市は、地域社会の形成に寄与する地区を考究する対象として、麗江大研古城地区が選定され調査が実施された。麗江大研古城地区内には自噴井の「三眼井」があり、少数民族の納西族による水

利用がなされてきた。本研究では、世界遺産指定以前の社会基盤整備の推進や、世界遺産指定後の地区外からの住民の移住により、住民生活や地域社会に対して内的・外的な環境圧が高まり、生活習慣の変化が強いられてきたことを明らかにしている。すなわち、現地調査では、三眼井の水利用に関する住民間での慣習や規約の伝承を明らかにし、納西族住民の伝統的な生活形態が大きく変化してきた要因を明らかにしていることである。調査結果の考察では、三眼井は800年来の水利用規約が順守されて「生きた水」となっていることや、新たな模倣的な観光用三眼井が設置されてきた状況を捉え、大研古城が「水のまち」として持続可能な発展をするためには、少数民族の納西族住民に見る伝統的な習慣や規範意識を保持できる生活環境づくりが重要であることを示し、社会基盤整備が必ずしも住民生活を豊かにしないことなどを示した。このことは、地域住民の有する文化の流れの中にある街区の保護施策には、その歴史背景を十分に考慮しなければならないことを示唆している。

さらに、麗江大研古城地区では、地区を流下する河川や疎水、小水路網に付随する利水施設に焦点を当て、水路のある街路空間を現地調査した。その結果、三眼井のような伝統的な水利用空間に加えて、多様な水路空間が街の主要構成要素となっており、まちの魅力をつくり出し出していることを示している。また、水路は住民に日常的に利用されている一方で、観光客の増加が水路を汚染してきたことも指摘している。以上のことは、今後、「水のまち」として大研古城が持続的な発展をするためには、健全な水利用と水環境の継続的な維持管理が重要であることを示しており、同様な他の地区に対する保護施策に対しても有用な検討事項を明らかにしている点は高く評価できる。

以上のように、本論文では、中国における文化・環境の保護における課題や問題点を捉え、今後の都市環境の形成に資する計画的示唆を見出すことを目的に、歴史的建築物、歴史文化街区、地域社会形成に寄与する地区の保護に着目した調査および分析が行なわれている。その結果の要約は次のとおりである。

- ①歴史的・文化的な建築物や街区の保護に対しては、一般市民への理解増進や啓発を図ることが重要である。
- ②歴史的・文化的な価値に基づく建築物の保護に関しては、居住者による大幅な改造や機能転用なども数多く見られ、元の形態を大きく逸脱した使われ方や、地域性のない商業主義的利用の増加がある。その一方で、保護地区周辺部に様式や時代性を模倣した街区を形成している場合など、混在化による新たな問題も見出しており、早急な対応措置を施す必要がある。
- ③保護対象地区に住む住民は、地区内において築かれてきた習慣や風習、規範意識や相互扶助に基づき親近性の高い地域社会を構築してきているため、蓄積された関係性を重視した住民意識を継承できるようにすることが重要であり、従来の立退きではなく地区を育成するように住民参画による地域づくりを推進すること、水空間は住民生活の利便性を高めること、生活習慣や伝統として継承されてきたことを理解した空間整備や水環境維持が重要である。
- ④文物保護法により歴史的・文化的な価値を持つ建築物の多くは、保護保存の手立てが進められるものの、その一方で、改築増築、破壊・解体もなされているため、保護・復元の対策として、実測調査に基づく図面を電子情報化しアーカイブ化することが重要であり必要である。

本論文は、中国国内の歴史的建築物や街区に対する保護の取組として、中国文化財保護法の下、文化財保護管理方法、文化財建築物保護、歴史文化名城制度、歴史文化街区制度、歴史文化名鎮名村制度、優秀歴史建築物制度が制定された経緯、ならびに文化財建築物に指定された建築物に対しては、在所の省や市の条例制定という管理体制に至る経緯の詳細な分析と共に、長期にわたる代表的な3地区の現地調査結果の分析から、歴史的建築物や街区の保護整備や生活者の理解に基づく対策などの有用な問題解決方策と、保護施策の展開方策と質的向上に資する結論を導いた。これらのことは、事実の客観的な整理・分析に立脚しており、その結果が示唆することは、今後の中国の歴史的・文化的都市環境における開発や保護の施策と活動に対して貴重な貢献をなすものと考えられる。

このことは、本論文の提出者が自立して研究活動を行い、又はその他の高度な専門的業務に従事するに必要な能力およびその基礎となる豊かな学識を有していることを示すものである。

よって本論文は、博士（工学）の学位を授与されるに値するものと認められる。

以上

令和元年 10月 17日